

2016.9.8 19:58

【明美ちゃん基金】「早く友達と遊びたい」 心臓手術を受けた女兒 ミャンマー医療支援

【ヤンゴン=前田武】国内外の心臓病に苦しむ子供たちを救う「明美ちゃん基金」（産経新聞社提唱）のミャンマー医療支援で、ヤンゴンを訪れている医療団は8日も治療を続けた。この日までに27人が医療団による外科手術やカテーテル治療を受けており、「友達と遊びたい」と笑顔を見せる子供もいた。

「友達に会いたい。早く学校へ行きたい」。ヤンゴン市内に住む8歳の女兒、エイン・チツ・サンちゃんは、生まれつき肺静脈に異常がある「総肺静脈還流異常症」の手術を5日に受けた。術後も順調で、8日にはお菓子が食べられるまでに回復した。

幼いころから息が苦しくなったり発熱が続いたりしていたエインちゃん。3年前に診断を受け、「手術しなければ長くは生きられない」と告げられたが、ミャンマーの医療技術では手術が難しかった。

その後も症状は徐々に悪化したが、母親のニエインニエイン・トゥエさん（30）は今年8月、医師から「日本の医療団が手術をしてくれる」と教えられ、ようやく希望を抱くことができたという。ニエインニエインさんは「顔色もいいように見える。この子は英語が得意で、学校の先生になるのが夢。それを応援したい」と話した。

手術に参加した京都府立医科大の森本和樹医師（35）は「手術はうまくいったが、その後も重要だ。現地のチームがきちんと術後の管理を行えるよう指導したい」と述べた。



手術を受けて元気になった、エイン・チツ・サンちゃん（右）＝8日午前10時10分、ミャンマー・ヤンゴン（安元雄太撮影）